

「群馬県のGXを加速する 地域資源活用新産業創出 プラットフォームの整備」 キックオフシンポジウムを開催



▲パネルディスカッションの様子
(左から天谷教授、小林課長、中田教授、小森谷氏、板橋副学長)

群馬大学では、群馬県企業局の公募事業である「再生可能エネルギー・脱炭素化研究開発等助成金事業」への提案の採択を受け、県内の未利用資源を最大限に活用して、新たな産業を創出して育成するための研究開発を実施することになりました。

本事業では、地域の未利用資源とエネルギーを

回収する資源ハブベーステイニング、集まった未利用資源を高付加価値の材料・素材へ転換、得られたエネルギー資源を高効率で利用する仕組み、これら3つの視点から企業等の投資を引き出すため、新産業の創出に必要な基盤技術を開発していきます。さらに新規事業を検証し得る拠点を3年間で準備し、社会実装を推進していく予定です。

2024年9月5日、群馬県桐生市市民文化会館にて、群馬県、桐生市、桐生商工会議所、群馬地区技術交流研究会、群馬グリーン産業創出プラットフォーム（内閣府地域バイオコミュニティ）等多数の関連団体から

後援いただき、行政・民間企業・金融・報道機関だけでなく、一般市民の方々と百人を超える参加者が集まり、これから開始する研究開発への理解を深めました。

シンポジウム冒頭、本

学の花屋実 研究・企画担当理事・副学長の開会挨拶ののち、大学院理工学府の天谷賢児教授、荒木幹也教授、野田玲治准教授による事業内容紹介、東北大学大学院工学研究科 中田俊彦教授による基調講演「脱炭素をドライブさせる地域エネルギーデザインの実践」、ファシリテーター天谷教授により、群馬県グリーンイノベーション推進課の小林一廣課長、中田教授、ぐんま特使(タレント・キャスター)の

小森谷徹氏、本学の板橋英之副学長によるパネルディスカッション「群馬県の脱炭素化に向けて」が行われ、大学院理工学府の石間経章学府長による閉会挨拶で閉じました。

パネルディスカッションでは、質疑応答の時間がとられました。再生可能エネルギーを普及させるためには地域住民の意識を高めていく必要があります、あわせて住宅構造の性能や住宅用太陽光パネルの普及率をいかに向上させていくのが重要な課題であるなど活発な意見交換がありました。また、この事業を契機にスタートアップが生まれる仕組みを考える必要があるなどの多数の提案が出されました。